

機工協情報誌

JASEA GUIDE

アジアガイド58号

発行：一般社団法人 日本自動車機械工具協会
流通部会
本部：〒160-0022
東京都新宿区新宿7丁目23番5号
Tel. 03-3203-5131
Fax. 03-3208-2157
https://www.jasea.org/

安全・確実な整備に貢献

年頭の辞

各種機器

適切な使用方法を啓発

一般社団法人 日本自動車機械工具協会

柳田 昌宏 会長

令和7年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

我が国経済は緩やかな回復を続ける見込まれる中、経済全体の需給バランスは、今後、需要不足から供給制約の局面に入ると見られていま

国内の新車販売台数は半導体不足をはじめとした部品供給網の混乱が改善し、コロナ前の水準に戻りつつあるとともに新型次世代EVや自動運転技術の進展に伴う今後の市場の活性化が期待される

当協会が昨年とりまとめた令和5年度における会員会社の自動車機械工具販売実績は、コロナ禍からの業績好転による顧客企業の旺盛な設備投資需要を背景に、メカニク

このような状況の下、当協会は本年も自動車関連業界の一員として、クルマ社会の安全確保と環境保全に向けて自動車検査整備用機器の提供、これらの適切な使用及び維持管理に関する提案・啓発等、与えられた使命を果たすために種々の事業活動に取り組んでまいります。

本年は、我が国最大規模の自動車整備機器実演展示会「第38回オートサービスショー2025」を6月19日から21日までの3日間、東京ビッグサイト「東1・2・3ホール及び屋外」において開催します。今回のショーでは「次世代モビリティと共に歩む整備機器」をテーマに、自動車整備業界のニーズや自動車の新技術に対応した最新機器・

システム等の情報発信を行うとともに、業界関係者を始め、今後の業界の担い手となる多くの学生にもご来場していただけるよう広報活動にも積極的に取り組んでまいります。本ショーを通じて、より安全確実で、かつ、効率的な自動車整備の実施に貢献してまいります。

次に、自動車整備用リフト等の整備用機器については、依然としてその使用中の事故が後を絶たないため、これらの事故の調査結果を分析し、ホームページ、協会情報紙、業界紙等に掲載するほか、引き続き整備事業者等に対してポスター及びリーフレット等を活用してリフト、門型洗車機、タイヤチェンジャ等、各種整備用機器の適切な

使用方法や点検の重要性について啓発活動を進めてまいります。さらに、各種整備機器の事故防止リーフレットの改訂版を作成し改めて整備事業者等に配布するとともに、引き続きリフト点検資格者によるリフトの定期点検を推進してまいります。

次に、生産性や省エネ性に優れた検査整備用機器の普及に寄与するため、中小企業等経営強化法の経営力向上設備等及び先端設備等に係る生産性向上要件証明書が発行団体として、引き続き、証明書発行業務を適切かつ迅速に行ってまいります。

さらに、当協会はOBDを活用した自動車の検査に必要な検査用スキャンツールの型式認定試験を行っており、昨年11月末時点で50機種種の検査用スキャンツールが型式認定を取得しています。引き続き、検査用スキャンツールの型式認定試験を迅速かつ適切に実施していくとともに、国土交通省をはじめとした関係機関と密接に連携して、検査用スキャンツールの

開発・普及に取り組み、OBD検査の円滑な実施に貢献してまいります。

海外の車検情勢について、昨年9月、協会主催による視察団をドイツに派遣し、同国の自動車検査制度及び検査整備用機器等に関する情報を収集するとともに、見本市「アウトモカニカ・フランクフルト」を視察しました。また、同国の自動車検査用機器の校正に関する情報も収集しました。本年も、海外関係事業を積極的に推進してまいります。

スキャンツール型式認定も迅速に

当協会の主たる事業である自動車検査用機械器具の校正及び試験業務については、これらの機器の精度等の確認を確実に実施するため、校正員・試験員の知識・技能等の向上を図りつつ、より一層の適正化に取り組むとともに、その効率化及び顧客サービスの向上に努めてまいります。

以上本年の取り組みの一端を申し上げますが、このほかにも協会業務全般について電子化を推進し、業務の効率化、迅速化に努めることにも、様々な事業活動を積極的に実施し、関係の皆様のご期待に沿えるよう一層努力してまいります。本年も格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



最後にになりましたが、皆様のお健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 日本自動車機械工具協会
会員各社

- 〔正会員〕
- アベテック(株)
- 株アムテックス
- 株アルティア
- 安全自動車(株)
- 株イヤサカ
- 興和精機(株)
- 嵯峨電機工業(株)
- 株サンコー
- 株ダイイチ
- 東洋テック(株)
- 日平機器(株)
- 株バンザイ
- ヤマト自動車(株)
- 株ユーコー・コーポレーション
- 株ローンチオートマーケティング
- 〔特別会員〕
- 株阿部商会
- 株インターサポート
- 株ヴァリュー・トレーディング
- 大塚メカトロニクス(株)
- 株オーテル・インテリジェント・テクノロジ
- 株三栄電子機器
- 株スナップオン・ツールズ
- 株スピーディ
- 株ツールプラネット
- 株司測研
- 株日立Astemoアフターマーケットジャパン
- 株ボッシュ
- 株マツキ
- 株山形部品

総売上高D I 2年ぶりの悪化

日整連 需要動向調査

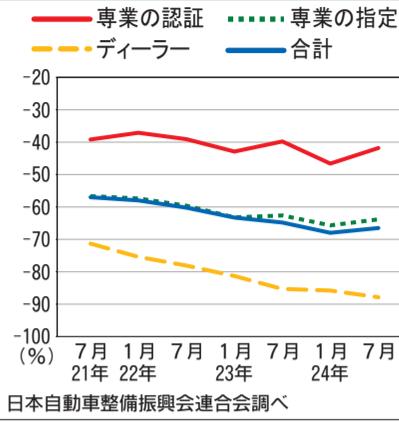
24年1～6月期

日本自動車整備振興会連合会（日整連、喜谷辰夫会長）の第57回「整備需要等の動向調査」によると、2024年1～6月期の総整備売上高D I（業況判断指数）プラスと回答した事業者の割合からマインスを引いた数値）と総入庫台数D Iは、2年（4半期）ぶりに悪化した。これまでは新車の供給制約で代替が遅れた車両の整備入庫が必要を後押ししていた。長納期化が解消に向かったことでD I低下の一因になったとみられる。実際、同期の継続検査台数（登録車と軽自動車の合計）は前年実績に比べて3.6%減少しており、日整連も「法定需要の減少が影響した」と分析している。

総整備売上高D Iは、23年7～12月期に比べて9.2ポイント減の4.3だった。業態別は専門の認証工場が同0.3ポイント減（マイナス17.6）、ディーラーが同2.9ポイント減（38.5）とわずかな悪化だったが、専門の指定工場が同16.3ポイント減のマイナス8.0となり、全体を押し下げた。

24年7～12月期の予想総整備売上高D Iと予想入庫台数D Iは、ともに改善した。売上高は1.5ポイント増のマイナス7.7、入庫台数は1.2ポイント増のマイナス15.7となった。業態別では専門認証とディーラーが上昇を見込む一方で、専門指定は引き続き低下が見込まれている。

整備士（労働力）の過不足感のD I（業況判断指数）



整備業界全体における景況感D Iは、24年1月調査に比べて2.4ポイント増のマイナス36.4だった。4半期連続で改善するにも、過去最高を更新。また、すべての業態でも最も高い値となった。

第24回全日本自動車整備技能競技大会 結果

順位	チーム名(振興会名)	得点	選手	
優勝	北見	945	廣井 晃彦さん 湧別町農業協同組合車輛整備工場	佐々木 昭弘さん 清里町農業協同組合 農業機械センター
準優勝	奈良	930	中谷 謙一さん 中谷商事(株)生駒東給油所	鎌口 信広さん (株)G.C.S
3位	埼玉	922	中間 達也さん (株)ユーエイ	菅 竜太さん (株)ユーエイ
4位	札幌	920	西條 晴紀さん (株)ワシダ商会	種市 紘さん (株)平和車輛工場
5位	長崎	909	池田 孝志さん 池田モータース	堀池 心剛さん ポディーショップクサノ
6位	宮崎	904	福丸 喜貴さん 都城地区自動車整備事業協同組合	中村 直樹さん 花原モータース
7位	新潟	902	川邊 博人さん フラワーオートガレージ	出沼 寛之さん シーエムシー中越モータース(株)ビットサークル新潟店
8位	福井	893	田中 龍斗さん (株)ウエジマ	矢納 圭悟さん (株)崎飯金

全日本自動車整備技能競技大会

北見整振 3回目の日本一



優勝した北見整振チームの廣井さん（左）と佐々木さん

競技車両初のHV

日本自動車整備振興会連合会（喜谷辰夫会長）は、第24回全日本自動車整備技能競技大会を東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催した。各地の自動車整備振興会（整振）から47チーム94人が出場。日ごろの業務で培った知識や技能などを競い合い、北見整振チーム（廣井晃彦選手・佐々木昭弘選手）が6大会ぶり3回目の優勝を果たした。

大会は実車、基礎、アドバ e パワー」が使われた。47チームの3競技で実施し、その間は2ブロックに分かれ、アドバ e パワー」競技で顧客から競技車両には日産「ノート」の状態について問診を行った。



競技車両として初めてハイブリッド車が使われた



アドバ e パワー」競技は作業前の問診、作業後の引き渡し

たあと、実車競技、基礎競技を行い、最後に納車説明のアドバ e パワー」競技を行った。このうち実車競技では、1年定期点検整備をベースとした点検整備と故障診断が課された。

ランプ類の状態を確認するため、選手が「ハザード（点灯）お願いします」などと互いに声を掛け合いながら、作業を進めていった。競技時間を有効活用するため、パソコンを競技車両の近くまで移動させ、配線図などを確認する姿もみられた。

47チームの精鋭94人が熱い戦い

目に分かれの勝敗が確認条件のモードマナー

故障箇所はエンジン関係、ボデー関係合わせて6問設定されており、半分以上のチームが時間内に全6問をクリアした。

講評では、実車競技で電動車特有のマナーモードの許可条件を整備マニュアルから確認できなかったチームが半数近くあったことや、インテリジェントキーの現象確認を怠ったチームがみられたことが指摘された。アドバ e パワー」競技については顧客に分かりやすい言葉で説明することの難しさについて触れる場面がみられた。

会場には振興会関係者や出場選手の家族などが、各地から応援団が駆け付けた。応援団は揃いのジャンパーなどを着用し、競技ブース前にはのぼりや横断幕を掲げて選手を激励した。設定された課題をクリアし、故障完了表に「てんけん君」が現れると、応援席からは拍手と歓声が沸き起こった。

結果は別表の通り。北見整振チームの優勝は第18回大会以来となる。

スキャンツール導入補助

今年度も「2回目」実施見通し

整備工場

もつと有効に補助金を活用しよう



自動車整備工場が活用できる補助金は意外と多い。整備工場に特化している国土交通省のスキャンツール（外部故障診断機）導入補助は整備技術の高度化を目的とした補助金だ。2024年度は予算額が約6億8千万円で、OBD（車載式故障診断装置）検査で

使用する法定スキャンツールを対象に実施した。受付期間は約半年あったものの、申請金額が上限に達して早期に終了。スキャンツールとともに使用するパソコンやタブレット端末のみの購入や、研修受講の経費の一部も補助している。すでに法定スキャンツ

ルを保有する整備工場においても、1台目に不具合が起きた時のバックアップとして補助金を活用するケースがみられた。国交省は今年度2回目となる補助金を実施する見通しで、1回目を上回る10億5千万を見込んでいる。25年度も予算を求めている状況だ。

中小企業省力化投資補助

車体整備関連機器も対象



6月に始まった中小企業庁の「中小企業省力化投資補助事業」（カタログ型省力化補助金）は、整備工場向けとして溶接機や調色システムなどの車体整備関連機器が登録されている。補助率は2分の1以下で、補助上限額は従業員数5人以下が200万円、同6〜20人が500万円、同21人以上が1千万円となる。省力化とともに賃上げを目的と

しており、事業計画に定められた内容を盛り込んだ事業者は上限額がいずれも1.5倍引き上がる。人手不足が深刻化している整備業界の各種機器は作業の省力化や省人化につながられるものが多い。現在、カテゴリ登録されているものは車体整備向けのみとなるが、これ以外の機器にも広がる可能性はある。

技術高度化 対応のためにも

「ものづくり」 「IT」 導入補助も

これらのほかに整備工場が活用している代表的なものでは、整備機器などの導入にも使える「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金（ものづくり補助金）」や「事業再構築補助金」などがある。ものづくりや事業再構築補助金の採択結果によると、先進運転支援システム（ADAS）の整備への対応を目的とした複数の事業計画が選ばれている。実際に活用した工場では、ホイールアライメントテストやエーミング（機能調整）作業ツールを導入し、ADASなど電子制御装置整備を内製化するとともに、収益の拡大へとつなげている。また、業務のデジタルトランスフォーメーション（DX）には業務支援システムに使える「サービス等生産性向上IT導入支援事業費補助金（IT導入補助金）」などもある。

電気自動車（EV）への対応には整備機器のほか、EV用充電器は必須となる。国も充電インフラの構築に力を入れており、「クリーンエネルギー自動車」の普及促進に向けた充電・充てんインフラ等導入促進補助金を実施している。整備工場にとってもプラグインハイブリッド車（PHV）やEVを受け入れるための設置は有効で、顧客にも開放できれば従来よりも顧客との接点回収の増加なども期待できそうだ。

◇ 自動車整備は20年4月の特定整備制度の施行以来、事業環境が大きく変化している。ただ、足元では実感できないところも多く、先行きが不透明な中で、新たな設備投資に踏み切れないところも少なくない。こうした中で、生産性を高めるとともに整備技術の高度化に対応する方法の一つとして、補助金制度なども有効活用していくことが重要となりそうだ。

第38回 オートサービスショー2025



「次世代モビリティと共に歩む整備機器」

6月19日から3日間

東京ビッグサイトで

省力化・効率化 機器が多数

日本自動車機械工具協会は、2025年6月19日(木)～21日(土)に「第38回オートサービスショー2025」(会場：東京ビッグサイト)を開催する。電動化や自動運転技術が進展するなど、自動車業界が大きな変革期を迎えるなか、「次世代モビリティと共に歩む整備機器」をテーマに掲げ、高度

化する関連機器や省力化・業務効率化につながる数多くの新しい提案を行う。関東近郊の工業高等学校の来場誘致にも力を入れ、未来の整備業界の担い手である学生の来場を促進する。最新の自動車整備機器を身近に感じてもらおう。整備士の仕事により魅力を感じてもらいたいとする狙いがある。会場では新たな試みとして「キャリアサポートコーナー」を設置する。任意の企業が参加し、来場した学生に向けて企業PRする場として機能させたいと考えた。

THE 38th AUTO SERVICE SHOW 2025

Automotive Service Equipment
with the Future of Mobility

第38回 オートサービスショー2025

次世代モビリティと
共に歩む整備機器

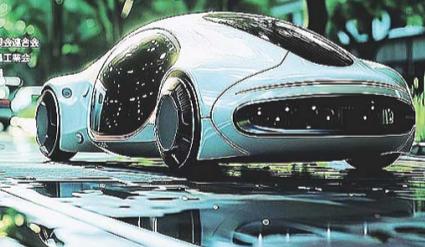
6.19 THU → 6.21 SAT

東京ビッグサイト
東1・2・3ホール及び屋外展示場

入場料 1,500円(消費税別)

主催者：一般社団法人日本自動車機械工具協会

後援：(市県市庁) 国土交通省 経済産業省
一般社団法人日本自動車機械工具協会
一般社団法人日本自動車整備協会
一般社団法人日本自動車整備技術協会
一般社団法人日本自動車整備教育協会



「キャリアサポートコーナー」も

合わせて日本自動車機械工具協会ブースでは日本自動車整備振興会連合会協力のもと、学生にとって目新しいデジタルトルクレンチを体験できるコーナー「デジタルトルクレンチ体験コーナー」の設置を予定している。体験コーナーではトルク当てクイズやねじ切れなどを体験してもらう。生徒を対象としたイベントとしては昨年に引き続き、スタンラリーを実施し、プレゼントとして各種ノベルティを取り揃える。会場は東京ビッグサイト東1・2・3ホールと屋外。小間数は屋内が1千小間、屋外が30小間を予定。5万人の来



場を見込む。開催時間は午前10時～午後5時(最終日は午後4時)まで。入場料は一般が1,500円、学生が500円(消費税込み)。事前登録者と中学生以下は無料。

第38回オートサービス
ショー2025開催概
要はこちらへ

